

分野名：家庭教育

こんな時代だからこそ家庭に読み聞かせを ～昭和から平成そして令和へ 鞍手町文庫連絡会の活動報告～

鞍手町中央公民館【公立公民館】

鞍手町教育委員会 教育課 文化振興係 主査 梶栗 愛民
鞍手町文庫連絡会 会長 由衛 久子

1 事業名

鞍手町読み聞かせ事業

2 事業の目的

幼少期からの読書普及活動を推進し、子どもの健全育成に寄与することを目的とする。



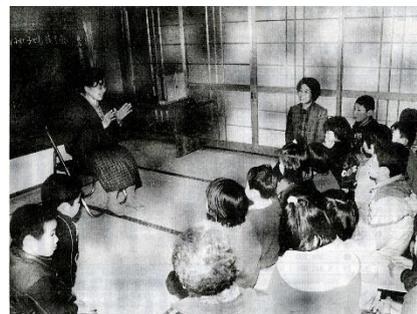
3 事業の主体

鞍手町文庫連絡会 (町内小学校・保育所)

4 連携・協力機関・団体名

鞍手町文庫連絡会 (平成2年結成)

昭和57年(1982年)鞍手町中央公民館の講座「子どもの本の学校」がはじまり受講生が地域での読書会へと展開、さらに受講生の活動は朗読や絵本を読む会、大人の読書会等のサークルへ発展。



町内10ヵ所で親子の読書グループが結成されています。本の読みかせ、貸出し、手づくり、お作りの話をきく等のふれ合い活動をしています。

(写真は長谷子ども読書会)

5 事業予算

町からの補助金 160,000円 その他(ボランティア活動保険)

6 実施に至る経緯

当時、町教育委員会の指導員をされた渡辺栄子さんが終戦直後の焼け野原で子どもたちに絵本の読み聞かせをした体験がもととなり、子どもの読書活動に取り組み、昭和55年4月、鞍手町内で「長谷子ども読書会」を読書仲間が立ち上げられたとされています。

昭和57年(1982年)鞍手町中央公民館の講座として「子どもの本の学校」を開設しました。この講座を受講し学ばれた方々は、ほとんどが子育て中のお母さんでした。

我が子への読み聞かせにとどまらず、その後それぞれの

地区文庫読書会の広がり

昭和57年	はせ子ども読書会 にぎた子ども読書会 いむた子ども読書会(中山)
昭和58年	鳥たけのご読書会(新延) 香風苑おはなしひろば(新延)
昭和59年	大池おはなしの会(小牧) 中央公民館子ども読書会(小牧)
昭和60年	倉坂文庫(古門) さやか読書会(古門北区) さやか木月読書会
昭和61年	新延親子読書会 やよいたんぼ読書会 旭読書会(八尋)
昭和62年	大池おはなしの会(小牧) 中央公民館子ども読書会(小牧)
昭和62年	中山北区おはなしの会
平成元年	室木小学校子ども本を読む会

地域での「読書会」へと展開していきました。さらに受講生の活動は朗読や絵本を読む会、おとなの読書会等のサークルへも発展していきました。

鞍手町内地域で開かれていた読書会の相互連絡、協力して子どもの読書普及活動に努めていくため、鞍手町文庫連絡会が結成されました。

昭和から平成そして令和へ名称や方法を変えながら現在まで読書活動を行っています。



7 プログラム作成の視点

読書をとおして心豊かな人に成長し、人生をおくり、読書の大切さを知ってほしい。

8 事業の内容 読み聞かせの対象が乳幼児から高齢者までに

子どもにとって耳からおはなしを聞くことは読書の第一歩、読書の大切さや楽しさを知ってもらうため、町内小学校（6校）と保育所へボランティアグループが出向いていき様々な形で読み聞かせを行っています。

またブックスタート事業を実施し、乳幼児向け（4ヶ月健診の際）に読み聞かせボランティアの方で赤ちゃんへの絵本の読み聞かせの実践をして若いお母さん（最近では若いお父さん）に読み聞かせの大切さや効果をすすめています。

そして現在ではさらに幅を広げ町内の老健施設（デイケアサービス）で高齢者向けに（昔話の朗読）を行っています。

文庫連絡会では著名な絵本作家を招いての講演会や学習会を開催し、自己研鑽と読書活動の充実に力を注いでいます。

9 事業の成果 読み聞かせの成果・効果

少子高齢化が進み、生活様式や家庭環境（共働き世帯や核家族が多くなった）の変化、大人や子どもたちの生活スタイルが時代とともに随分と変わってきました。

連絡会発足当初は、子どもたちの方から本を借りに来ていましたが、時代とともに、子どもの習い事などで忙しくなり、文庫に来ないようにになりました。

児童数の減少や仕事を持つ女性の増加等の影響で、昭和が終わり（昭和63年頃）平成に変わる頃から段々と活動を継続していくことが難しくなっていました。

その頃からこちらから子どもたちのところへ行くことになり、保育所や幼稚園、学校などに出向き読み聞かせ活動を行うようになりました。

それはまだ読み聞かせということばが定着していなかった時代、教育や保育の場に一般の人が参加することなどなかった頃の活動で今もお町内すべての小学校で行われています。

家庭教育の点から考えると、家庭で読書をする機会が著しく減っているのが現状です。

- ・子どもたちが夢中になること（ゲームやテレビ）が増えたため、昔話を聞き、読み聞かせを聞いたりすることが極端に少なくなった。
 - ・子どもを持つ親に読書をする習慣がないこと、わからないことを調べ子育てに関することでさえもすべて手元にある携帯電話（スマートフォン）で解決してしまう。
 - ・理解はしているが、子どもにも大人にも読み聞かせを体験する機会も時間もない。
- まだ定着したとはいえないのですが、ブックスタート参加者の中には時々男性の姿が

あります。世間ではイクメン（育児に参加する男性）と呼ばれる男性が積極的に育児に参加するようになったことで、社会でも職場でも後押しする世の中になりつつあります。

母親が子どもたちに読み聞かせをしているイメージですが、男性が読み聞かせをしている場面がこれからは想像できます。



10 今後の課題

どの活動でも共通の悩みではあると思いますが、読み聞かせボランティアの方々も高齢化が進み後継者不足解消が今後の大きな課題です。

鞍手町文庫連絡会では、子どもたちの笑顔と豊かなこころの育ちを願い、心を込めて読み聞かせを続け、いつか読んでもらったときの心地よさを体験してもらいたい。そして読み聞かせボランティアに頼らず、自分自身で家庭の中で読み聞かせから読書を通じてゆっくりでもいいから心豊かな人に成長し、子どもたちが、将来親になり、次の世代へ新たな読み手となってくれるよう願っています。

この町に住むすべての赤ちゃんからお年寄りまでこんな時代だからこそ読み聞かせのすばらしさを多くの方に知っていただきたいと思います。



11 問合せ先

〒807 - 1311 福岡県鞍手郡鞍手町大字小牧 2 1 0 5 番地

鞍手町教育委員会 教育課 文化振興係

TEL:0949-42-7200

E-mail : shakai-s@town.kurate.lg.jp